

**R5 年度 助成 海外調査研究終了報告書**

※ゴシック文字で記入下さい。

<p>渡航目的・ 研究目的</p>	<p>国際学会 Inter Noise 2023 に出席し、研究発表を行うため。</p>
<p>&lt;渡航ありの場合&gt; 渡航日程と 海外での成果 (発表・調査など)</p> <p>&lt;渡航なしの場合&gt; 成果 (発表・調査など)</p>	<p>幕張メッセ(千葉県)にて、2023 年 8 月 20 日～8 月 23 日の期間開催された国際学会 Inter Noise 2023 (52<sup>nd</sup> International Congress and Exposition on Noise Control Engineering)に出席し、国内外の研究者の研究発表の聴講及び自身の研究発表を行った。</p> <p>大会の目玉となる Theme-related &amp; Novel Approaches というタイトルのセッションでは、音環境のインクルージブデザインに関する研究発表が複数件あり、幼児・子供のための適切な音環境や、発達障害児のための音環境整備など、今まで配慮されることの少なかった音環境に関する諸問題についての様々な知見が得られた。</p> <p>自身の研究発表はポスターセッションで実施し、国内外の様々な研究者に発表した。特に、VR を扱う研究を行っている研究者に多く来訪いただくことができ、対象とすべき建築空間について、VR 空間における広さの感覚についての意見交換は、非常に貴重な機会となった。</p>
<p>研究内容の概要</p>	<p>近年 VR 技術の利活用が広まっているが、一般ユーザーにとっては仮想空間を作成するハードルは高い。その理由の 1 つに、残響時間などの聴覚面の適切な設定が難しいことが挙げられる。本研究では、パノラマ写真により VR 表示された建築空間の見た目に調和する残響時間を提案することを目的とする。これを、仮想空間に付加する残響時間の目安として使用することで、一般ユーザーでも聴覚的にリアルな仮想空間を作成する一助になると考えられる。</p> <p>申請者は、人が建築空間の見た目から予想したその空間の響きを“予想残響時間”と定義し、パノラマ写真による仮想空間に対する予想残響時間を被験者実験により測定してきた。本申請の論文では、これまでに得られた予想残響時間のデータ、予想残響時間に影響する視覚的な要因(SD 法による主観評価実験の結果分析)を示した。そのうえで、予想残響時間を用いて、パノラマ写真により VR 表示された建築空間の見た目に調和する残響時間のモデルとして、横軸を室容積[m<sup>3</sup>]、縦軸を予想残響時間[s]とした散布図を作成した。</p>

提出期限: 帰国後すみやかに助成金の「必要経費使途明細書」「領収書」と合わせて提出下さい。